令和７年度学校評価表

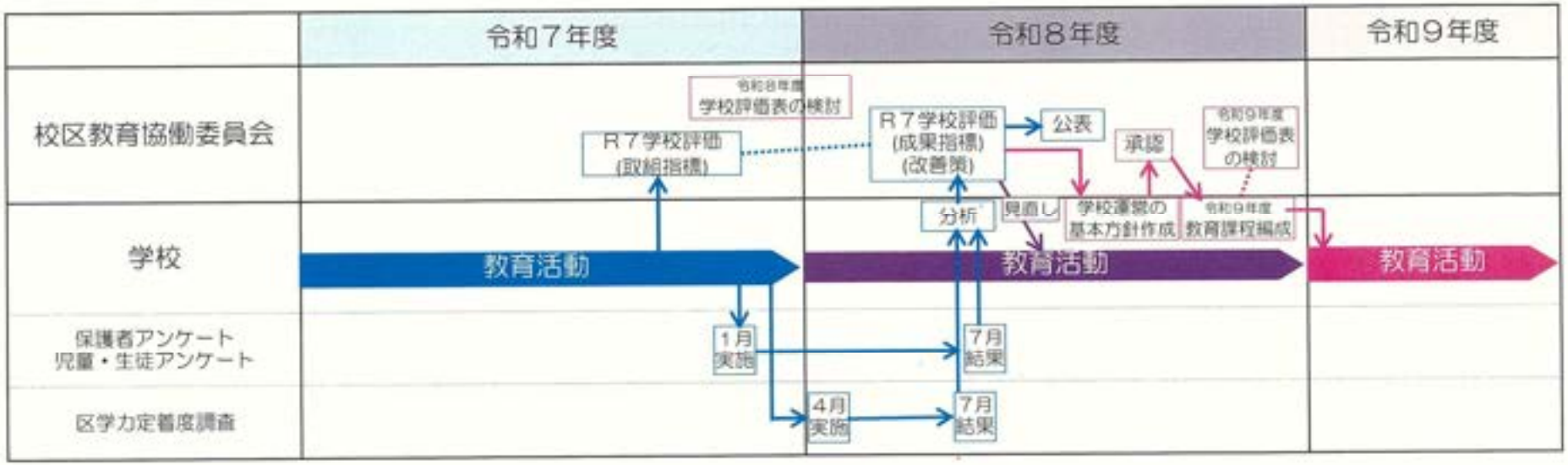
品川区立大崎中学校	校長	実松　美智代
大崎中学校校区教育協働委員会	委員長	日下　虎太朗

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立大崎中学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標		○知識・技能をしっかり身に付け、思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○学習意欲の向上を図り、主体的に学ぶ力を育てる。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	区学力定着度調査（4月実施）で「観点別正答率の目標値」を上回る。	8・9年生の結果について、9年社会科の正答率のみ目標値を下回った。しかし、同一集団の成長の過程では全ての教科で標準スコアが伸びてきている。	B	校内研究テーマ「学ぶ意欲を高める指導の工夫～個別最適な学びと協働的な学びを生かして～」を継続し、教員が同じ視点で授業改善を図り、学習意欲を高め基礎学力の定着につなげていく。 朝読書は落ち着いた状態で授業がスタートできる。家庭での読書習慣がない生徒が多くいる実態もあり、10分間読書を継続していく。書いて覚える機会を確保するという視点からも、引き続きコンテスト形式のテストを実施していく。
	・子どもが主体となれる授業実践に取り組み、生徒の主体的に学ぶ力を高める。	教員は校内研究の主題のもと授業改善に努めた。84%の生徒が授業に意欲的・主体的に取り組めていると自己評価している。	A	
	・10分間朝読書を定着させ、学習に向かう態度および長期的な学力の向上を図る。	朝読書に集中して取り組めている生徒は83%いる。また全ての教員が生徒の読書の様子について肯定的に評価している。	A	
	・漢字語句・計算・ｽﾍﾟﾘﾝｸﾞｺﾝﾃｽﾄを定期的に実施し、基礎学力の定着を図る。	基礎学力の向上に活用できている生徒は73%であったが、各種コンテストを励みに基礎学力の定着に取り組んでいる生徒も多いという実態があった。	B	
②	各授業で85%以上の生徒が「分かりやすい」「授業へ主体的に参加できた」と感じる。（授業アンケート）	90%以上の生徒が授業が分かりやすいと答え、88%の生徒が主体的に授業に参加できたと答えている。	A	学習形態の工夫により、授業に主体的に参加できていると感じる生徒が増えてきていると捉える。安心して分からないといえる風土をつくることは学ぶ意欲につながるので、教員による授業改善について、次年度も校内研究を軸に、全教員で取り組んでいく。 生徒からも勉強の仕方について発信する取組が見られた。自分事として考える意義のある取組であった。来年度も続けさせたい。
	・スモールステップによる授業進行と、ICTの効果的な活用	授業で積極的にICTを活用しているとともに、場面を選んで活用する様子が見られるようになってきている。	A	
	・地域未来塾を活用した補充学習の充実 ・学習ボランティアの導入による環境づくり	未来塾の案内時期を工夫したことで参加率が向上した。学習ボランティアが適宜サポートに入ることにより、安心して授業を受けている様子が見られた。	A	
③	学びたいことを明確にした上で自学ノートに取り組めている生徒が70%以上となる。（アンケート）	家庭学習の習慣化のために役立てている生徒は57%、基礎学力の向上に役立てている生徒は60%であった。	B	学校で学んだことを家で定着させたり、家で予習したことを学校で深めたりする学習は、将来、学び続ける力につながる。7年度は9年生は1学期までとした。今後は発達段階や合理的配慮などをさらに考慮し、個に応じた自学の機会として活用できるよう工夫していく。
	・自学ノートの取組の趣旨が「自ら学ぶ力を高めるため」であることを理解させる。	昨年度に引き続き教員側の意図と生徒の意識の間にギャップがある。	B	
	・実際の自学ノートへの取組例を具体的に提示することで、取り組みやすくする。	生徒会のメンバーが「勉強の仕方」を紹介するなどの、家庭学習につながる主体的な取組が出てきていることは評価できる。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立大崎中学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	○規律を大切にし、当たり前のことを当たり前に行うことができるようする。 ○行事や特別活動等、他者と関わる体験的な学びの充実により自己の役割を果たす経験を積み上げ、社会の中の一員としての意識を高める。 ○多様性の理解を高めるとともに、自己の将来の生き方やあり方について考えられるようにする。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	・挨拶、服装、言葉遣い、きまりやマナーを守ることなどの規律ある行動を意識して生活できている生徒が85%以上いる。（アンケート）	92%の生徒が決まりやマナーを守り規律ある学校生活を送っていると回答した。	A	生徒による挨拶運動を生活委員と生徒会役員が定期的に行っている。規律ある行動が及ぼすプラスの効果について全校朝礼で話したり、各種のたよりで投げかけたりして、浸透させていく。 生徒たちの言葉の中にも、過ごしやすい学校にしていくために、前向きな言動を大切にしようというメッセージが多く発せられるようになっている。それが定着するようにしていく。
	・生徒会活動で自分たちの生活を向上させる取組を行わせる。	毎回の生徒会朝礼で先月の活動の評価と今月の目標についての発表したり、自分たちの企画を実行したりとする主体的な取組は増えてきている。	B	
	・授業規律（言葉遣いや態度）を大事にするとともに生徒の前向きな言動を賞賛する。	安心して学校生活を送ることができていると感じている生徒が93%であった。授業規律や前向きな言動を大切にしていると捉える。	A	
②	・主体的に学校生活を送ることができていると感じる生徒が80%以上となる。（アンケート）	自分の役割を意識し前向きに取り組もうとしている生徒は91%であった。	A	朝のみでなく、校内ですれ違う際に自分からあいさつの声を出す生徒が増えている。 生徒会会則について、生徒会が主体となって熟議を行い、全校生徒の納得を得た上で変更することができた。 生徒会活動をより主体的に活動できるよう、教員が共通意識をもって指導・支援に当たる。
	・学年、学級、行事、委員会、部活動など様々な役割を果たす機会を作り評価する。	一人一人を大切にしながら生徒の活躍の場を作ろうとしているという設問に94%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	
	・生徒が主体となって取り組む場面を多くつくりその取組をプラス評価することで自信をもたせる。	生徒の前向きな行動に対し、プラスの声掛けを意図して行うようにしている。	A	
③	多様性への理解を高めることができていると感じる生徒が80%となる。	生徒へのアンケートは実施していない。保護者の89%が本校が多様性の理解を深める活動を推進していると評価している。	B	新たに導入したパラアスリートの講演を毎年8年生対象に毎年実施することとした。 良さを認め合い、尊重し合える風土を醸成するために「ウェルビーイング」を前面に出した運営を実践していく。
	・ゲストティーチャーによる授業を実践し、共生社会への意識を高める。	ゲストティーチャーや地域との連携行事による赤ちゃんと触れ合う授業や障がい者理解に関する授業を通して多様性への理解を推進している。	A	
④	・将来の自分自身の生き方・あり方について考える生徒が80%以上となる（アンケート）	将来の生き方について考えることができている生徒は昨年よりも増加（2%増）したものの71%であった。	B	・市民科の授業を中心に、今学んでいることが自分の将来につながっている内容であることを示唆するような言葉かけや意識づけを行っていく。 ・ボランティア活動により社会との接点を自ら積極的にもとうとしている生徒も増えてきているので、継続していく。
	・将来設計領域で探究的な学習を行い、自己の将来について主体的に考えられるようにする。	市民科の将来設計領域で探究的な学習を行い始めている。まずは探究学習の進め方について、教員の理解を高めていく。	B	
	・地域の方や企業を招いた体験授業を積極的に実施することで、社会に触れる機会を多くする。	家庭科の浴衣の着付け体験や地域の企業を招いた授業、避難所開設訓練への参加等、地域で働く社会人と直接触れ合いながら学ぶ機会を設定した。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立大崎中学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標		○体力の向上や心身の健康に対する意識を高めようとする力を育成する。 ○食や健康に関する知識や関心を高めさせる。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	・運動への興味関心を高め、運動の大切さを85%以上の生徒が感じ、体力向上に臨んでいる。	86%の生徒が運動に興味・関心をもち、体力向上を意識していると答えた。	A	運動会の演技種目でもあるダンスの授業に、家庭でも個人練習するなど主体的に取り組む様子が頻繁に見られた。運動会の取組が体育活動にも良い影響を与えていると捉える。生徒主体で運営する種目を来年度以降も取り入れ、達成感・充実感につなげていく。 体を動かすことの意義を体育の授業を中心に生徒に理解させ、自ら実践していけるよう導いていく。
	・体育でスモールステップによる指導やTTを取り入れ、達成度に応じた丁寧な指導を行う。	発達段階や個々の生徒の実態に応じて、丁寧な指導が行われている。	B	
	運動会に生徒の企画による種目を取り入れ、自分たちで運営させることで運動への関心を高める。	全体種目に生徒が企画した縦割り種目を設けた。練習から本番まで自分たちの力でやり遂げることができた。	A	
②	・自他の心身の健康管理を意識できる生徒が85%以上となる。	自分の心身の健康管理を意識できている生徒は83%であった。	B	啓発活動は様々な機会を設けているが、生徒が自分事として意識することについては、まだ課題が残っていると捉える。 生徒からの主体的な啓発を生徒会活動等を通して増やしたり、保健の授業で課題意識をもたせるなどの工夫をさらにしていく。 各種便りを生徒が興味をもって読むよう、引き続き工夫していく。
	・健康に関するポスター掲示や朝礼・学活で呼びかける。 ・保健委員会で健康維持・管理に関する啓発活動を行う。	保健委員会やポスター掲示による呼びかけ、朝礼時の保健主任からの話、保健体育科の保健の授業などで健康について考える機会は複数設けた。	A	
	・食育や給食便り等による食事の大切さの啓発。 ・保健だより等での健康に関する啓発。	給食だよりや保健だよりは定期的に発行できている。	B	
③	・給食の残菜率を5%以下とし、SDGs達成の意識を高めさせる。	残菜率は日によって0%から14%と幅があり、トータルとして5%を超えていた。	B	生徒の給食委員会が主体的に動き、給食の時間を楽しめるように工夫し、残菜を少なくするためのキャンペーンも実施、その際は効果が上がったが継続は難しい状況であった。 栄養士による給食だよりも生徒がさらに興味がもてるよう、内容を工夫していく。
	・給食委員会でキャンペーン活動および啓発活動を行う。	食育に関する啓発は生徒会の給食委員会が工夫して行った。	A	
	・食育や給食便り等により食事の大切さに対する理解を深める。	食育については、給食だよりにより適宜行った。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立大崎中学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○人権尊重の精神を重んじ、安心・安全・快適な学校生活を作るために生徒の自治的な活動を支援、保護者・関係諸機関と連携を図りながら、いじめ根絶を目指す。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	・「いじめは絶対にいけないことであり、いじめを絶対に許さないと思う」の生徒アンケートで全ての生徒が肯定的な回答ができる。	98%の生徒がいじめは絶対にしてはいけないことだと理解していると答えた。	B	昨年よりいじめは絶対にしてはならないと理解している生徒の割合は増加したものの、100%には至らなかった。過去に嫌な思いをし、それをうまく解消できていない生徒が一定数いると捉え、引き続き、学校全体で尊重し合える風土づくりに努めていく。 自分たちで過ごしやすい学校を作っていく意識を生徒にさらにもたせるために、教育活動全てにウェルビーイングの視点をもつようにしていく。
	・いじめ予防プログラムといじめに関する授業の確実な実施	確実な実施をすることができた。	A	
	・人権尊重に関わる授業の実施と人権標語・ポスター作製の実施による啓発	発達段階に応じて、人権尊重に関わる授業を市民科の中で行っていた。標語やポスターによる啓発も概ね行えた。	B	
	・生徒会活動によるスマイルプランの取組の効果の検証	毎月の生徒会朝礼で各種委員会の取組ついての振り返りと翌月の取組の説明を行うことができた。	A	
②	・安心して学校生活を送ることができると感じている生徒が85%以上となる。	93%の生徒が安心して学校生活を送ることができていると回答した。	A	ウェルビーイングな学校づくりが、生徒の言動や教員の働きかけの様子から浸透しつつあることがわかる。 令和8年度は、全ての教育活動にウェルビーイングの視点を入れ、生徒によるよりよい学校づくりに対する主体的な活動を後押ししていく。
	・三者面談や校長面談の実施、ウェルビーイングカードの活用による安心な学級・学校風土づくりを行う。	授業や校長面談、ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙﾃﾞｰ等で積極的にウェルビーイングカードを使用することで、まずはウェルビーイングについての理解を図った。互いにかける言葉を大切にするよう意識づけも行った。	A	
	・朝礼や学活、学校・学級だより等による前向きな言動等、ウェルビーイングの啓発を行う。	各学年のたよりには、前向きな言動を大切にできるような内容が多数盛り込まれ、教員の意識は高くなっている。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立大崎中学校

公開

評価項目5　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標				
		○地域社会の一員としての自覚をもち、地域で役に立つことで自己有用感を高め、たくましく生き抜く生徒を育成する。 ○防災教育の推進を図り、主体的に地域防災について考えられるようにする。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	・地域の一員として他に役立つ経験の大切さを感じている生徒が80%以上となる。（アンケート）	86%の生徒が地域の一員として他に役立つ経験が大切だと回答した。	A	生徒たちは部活動とボランティアのバランスをとりながら、積極的に参加している。 日程を地域と調整しながら、参加しやすい体制を引き続き整えていく。
	・地域ボランティア活動の啓発により参加者を増やす。 ・卒業前に地域ボランティア活動を行うことで地域への感謝と地域の一員としての意識を高める。	年度の始めに地域ボランティアの種類を一覧表にして配布したことで、自主的な参加が増えた。卒業時のボランティア活動も地域とのつながりを深めるために有効であった。	A	
②	地域防災が大切であることを理解している生徒が80%以上となる。（アンケート）	地域防災に特化したアンケート結果を得ることができていない。防災に関わる講話や授業の複数回実施、一斉防災訓練への8年生全員参加等、防災に係る教育を推進した。	A	防災意識の向上と維持を図るため、品川防災プロジェクトの授業を引き続き定期的に実施していく。 令和8年度は総合防災訓練に8年生全員が参加し、地域と共に防災の実践的な訓練を行う。 年度初めの顔合わせについては継続していく。
	安全指導日を中心に、しながわ防災プロジェクトの授業を実施し、防災意識の向上を図る。	計画的に品川防災プロジェクトの授業を実施することができ、防災意識の向上は図れていると捉える。	B	
	地域との協働により、地区防災訓練に生徒が共助の視点で役割をもって参加できるように工夫する。	1学期の早い段階で各町会関係者に来校していただき、朝会ごとに顔合わせをした。また、地域防災訓練に8年生全員が参加し、役割を分担して、町会の方と共に避難所開設訓練に臨んだ。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成